

地域新聞 みあき 第5号

地域新聞みあき製作委員会
2018年1月1日 発行
連絡先  info.miaki@gmail.com

みあき図書館

(文責) 西川 清

内館牧子著 「終わった人」



1年半程前、明屋空港通店でこの本を見つけた。その頃、私自身定年退職から5年目をむかえており、『終わった人』というその本のタイトルがどうしても気に入り、結局購入してしまった。本の内容は、定年退職した主人公が、自分はまだまだやれると、いろいろな事に挑戦するのですが、プライドもあり、スナリといはいきません。淡いロマンスもありますが、家族との関係が、微妙に変化していきます、奥さん、娘さんの言葉が、今風に言うところ、超リアルで胸にズキーンときます。定年がまだ先という若い人にも、ご自身の将来を考える参考になるという意味では是非お読みします。

和尚の小屋

(文責) 西願寺 玉井 敬信

◇エゴの前に！

近頃、「エゴ」という言葉をよく耳にします。マイ箸を持参して割り箸を使わない(減らす)、エコバックを持参して買物する(再利用)、ゴミを分別する(リサイクル)、夏のエアコン温度を28℃以上に設定する(省エネ)など。身近に出てくるエコな活動は沢山あるようです。ただし、この「エコロジー」と言う言葉は、本来は「生物学」の一分野である「生態学」のことを指している。「環境に配慮した」とか「地球に優しい」とか言うような「自然環境保全活動」的な意味合いは、近年に生まれて広まったようです。実は、仏教では古来より、このエコに通じる考え方が脈々と伝えられています。それは「知足(ちそく)」と言う考え。「足りてい」ということを「知る」ということです。現代の私達の生活は非常に豊かです。しかしながら、人間の欲望は限りがあり、手間を省いて快適・便利に、そして大量生産大量消費。このような考えを見直す時期が来ているのです。

皆さん！まずは「知足」して自分の生活を欲制し、環境にも優しい「エコ」な生活を目指しましょう！

みあき今昔物語

(文責) 稲多 早苗

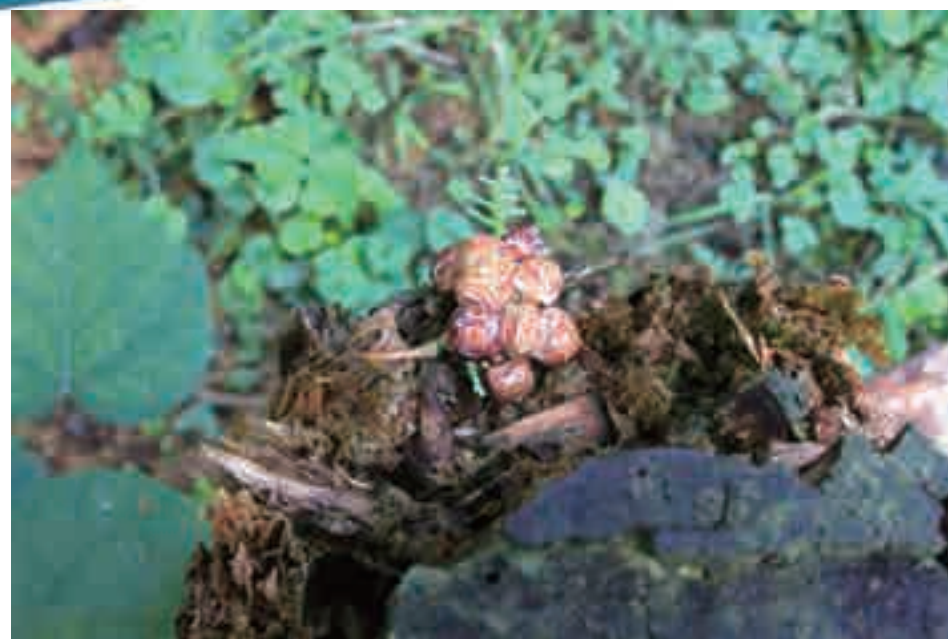


1979年(昭和54年)当時の三秋保育園

◇昔、三秋にも保育園があった！

今から20年前、三秋にも保育園(現集会所の場所)がありました。この写真はそれより10年位さかのぼった頃の三秋保育園での発表会。そのころの三秋保育園は原中地区にあり、園庭の大きな桜の木が立派でした。アルミのお椀に入った脱脂粉乳！？のミルクも懐かしく思い出されます。

私の絶景



枯れかけてた杉の切り株から顔を出す小さな芽 (撮影)藤井 潤一

切り株にいのちの神秘秋探し
いつき 夏

編集後記

昨年は、色々なイベントにトライさせて頂きました。ホテル観賞会、グラウンドゴルフ大会、ひっしこ市出店等々。これも地域の皆様のご理解とご協力の賜物と感謝しております。今年は、これらのイベントの定着と新たな挑戦、とりわけ、明神山登山道の整備に取り組んで参りたいと考えております。そして、いつしか皆さんが安心して登れる登山道として、三秋の観光スポットになるよう地域みんなで育てて行きましょう。(ひろ)

お詫びと訂正

本紙第4号の「はっけよ〜いのこった」の記事において、写真と名前が入れ間違っておりました。正しくは、「稲多 慶次くん(左)」「稲多 教経くん(奥)」です。訂正して、お詫び申し上げます。



平成30年を迎えるにあたって

(文責) 三秋区長 稲垣 信雄

新年明けましておめでとうございます。清々しい元旦をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、地域新聞みあきは創刊以来、早2年を経過致しました。これまで、紙面の拡大や多くのカラー写真の取り入れ、三秋の各層の人々のご意見を載せたり、三秋の歴史・いわれ等、魅力ある新聞作成に心掛けて参りました。特に、三秋の人々が取り組むべき防災活動については、新聞を通して呼びかけて参りました。今年度は、尚一段と編集委員のチームワークで魅力ある新聞として行きたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。



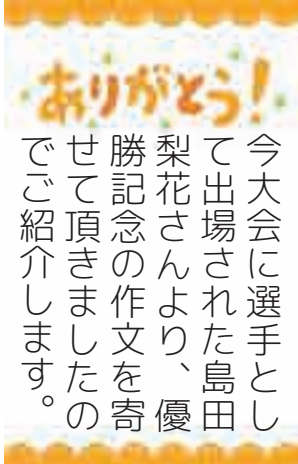
優勝・三秋チーム！選手大奮闘!!

(文責) 原田 浩明

9月3日、市民体育館にて、第21回北山潮風運動会が開催されました。定番の玉入れや綱引きをはじめ、



よし、次はボクの番だ...



最後の潮風運動会

(中学3年) 島田 梨花

9月3日に潮風運動会があり、三秋は見事優勝しました。私は今までで、5回出場しましたが、優勝できたのは初めてで、達成感を感ずることができました。玉入れやつな引きなど、今まであまり上位に入れたことがなかった2位に入れたこと、一番最初の競技から1位だったりと、とても絶好

平成29年度三秋地区防災避難訓練実施

(文責) 原田 浩明



三秋チーム優勝!!

調で、今までの運動会中で一番わくわくしました。中学3年生なので最後の運動会でしたが、とても良い思い出になりました。



西願寺にて(下組)

大災害に想う

(文責) 吉岡 満



三秋大池(8月中旬)

後に避難完了となりました。また、本訓練の参加者は80人でした。これらの実地記録は、次年度の訓練へ生かすと共に、全住民が地域防災について改めて考えるきっかけになることでしよう。防災士の折井さんも仰っていました、決して他人事ではないと。台風18号の豪雨で三秋地区も多大な被害があったことは記憶に新しいと思います。これを機会に、もう一度、防災について考えてみませんか。

9月17日、思ってもみない豪雨が、三秋地区を襲った。幸いにも、人家への浸水等は無かったが、山崩れや荒谷川の増水で、川岸の決壊し、田畑への浸水被害は、大きいものであった。一方、この豪雨は、大池の上流にも降ったはずである。しかし、大池の水深を下げる対応策を着実に実践していた為、この豪雨のストック溜池の役目を果たし、三秋下部路の増水災害の軽減に至ったことは素晴らしい出来事である。大雨、大地震、大池の決壊等の課題は、山積している。我々には何が出来るか。危険予知し、事前対策が三秋地区の急務である。

浅葱色に魅了

(文責) 原田 浩明



飛来してきたアサギマダラ
自宅庭先(上段) 三秋大池(下段)



フジバカマの花が満開を迎える10月初頭、今年も海を渡る蝶アサギマダラが我が家の庭先に飛来してきました。昨年よりも、やや遅い飛来でしたが、アサギ色(青緑色)の斑紋は、今年もその美しさを際立たせていました。

第3回野菜栽培
大学開催される

(文責) 原田 夏子



ホワイトボードを使っでの講義

毎度お馴染みの、第三回野菜栽培大学が11月11日開催されました。今回の主なテーマは次の通りです。

①第2回野菜大学での勉強内容を踏まえた夏秋キュウリの栽培総括

②種類のキャベツの栽培法、味の違い

③今後の栽培野菜(大根・玉ねぎ)

①の夏秋キュウリ栽培の総括については、参加者各自がこれまでの、総収穫数、売上、品質、作業実績など、栽培について、良かったこと、悪かったこと、などを反省して、来年の目標や、課題を見つけてきました。②は吉岡講師が栽培した、2種類のキャベツ(初秋・おきな)を食べ比べて、味や触感の違いなど感じたり、同じ栽培法では初秋は難しいことを学んだりしました。『初秋』は、やわらかく、『おきな』は味が噛めば噛むほど、出てきました。③は良い大根を作るにはどうしたらいいか、これ



から植え付ける玉ねぎの栽培数や、栽培法などを学びました。今回は『みあきブランド』の確立という点で、ひつしこ市に出店するという、また一歩前進できたと思います。これから野菜栽培大学を続けていき、よりよい野菜、果物を作っていきたいです。

大盛況! みあき野菜
倶楽部「ひつしこ市」
に出店

(文責) みあき野菜倶楽部



開店前の準備に勤しむ倶楽部メンバー

前日のどんよりとした曇りから一転、一気に冷え込みが厳しくなった秋晴れの11月19日、普段は閑散とした伊予港埠頭に、80店近い露店がほぼ一直線に立ち並ぶ。そして、9時のオープンの準備をする店主たちと今か今かと待ちわびる客たちの熱気。我がみあき野菜倶楽部も、前日より準備した野菜や果物等を店先に並べ、オープンに備える。そうこうしているうちに、メインステージからは、オープンの5秒前のカウントダウンの音が響き渡る。第1回ひつしこ市のオープンの。第1回ひつしこ市のオープンの。先には集まっていた客たちによって、野菜を中心にあつとい

う間に陳列キャリーから消えていく。予想以上の客入り。一時対応が追いつかない状態になることも。結局、この日用意した商品はすべて売り切り、大盛況の一日となった。



開店直後の店の様子

ひつしこ市を終えて

(文責) ひつしこ市実行委員会

高井 健二

去る11月19日(日曜日)、伊予港埠頭に第1回ひつしこ市が開かれました。ひつしこ市とは、商工会議所青年部主催で、愛媛県内のこだわりと想いが詰まった商品・製品・サービスを提供する場です。伊予市はもとより、各地からお越しの皆様が街伊予市で、1番(オンライン)を探してみようというイベントです。ひつしこ市の由来は、伊予の方言で一生懸命(ひつしこ)から来ています。当日は、風が強くかなり寒い日の開催になりましたが、出店ブースも80店舗以上参加して頂きかなり活気があり、メイン会場では餅まき・かき氷の早食い・鯉節の早削り・ライヴ等色々な催し物で会場全体を盛り上げていました。来場者数も約6千人と多くの人に足を運んで頂きました。また、

みあきにこの人あり

『交通安全協会中村支部
副支部長 伊予市指導員』
『伊予市防災士』

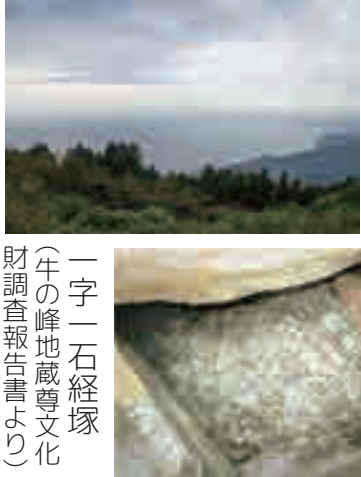
(文責) 折井 敬さん



折井敬さん(ご自宅にて)



牛の峰地蔵御本尊



一字一石経塚
(牛の峰地蔵尊文化財調査報告書より)



世話人の亀岡さん(左)と若宮さん(奥)



山頂にある石碑

お亥の子さん

(文責) 原田 浩明

11月、最初の亥の日に毎年恒例の亥の子が行われ、各地域に子供たちの元気な亥の子歌が響き渡りました。みんなうまくつけたかな...



会場内の様子(伊予港埠頭)

ちよつと知りたい
三秋地区

(文責) 藤岡 健司

◇北山崎小学校って...いつできたの??

明治のはじめ、愛媛県は石鉄県(せきてけん)と神山県(かみやまけん)にわかれていました。二つの県は、それぞれ学校作りについてけんめい頑張りました。私は神山県に属し、神山県は明治5年に28校の学校ができました。郡中で、灘町、湊町、三島町の3つの町がお金をだし、山崎小学校を建てました。明治6年2月二つの県が一緒になり、愛媛県が出来ました。この年、北山崎には鹿島小学校が作られました。

森、本郡、尾崎、中村の4つの村一緒になって作った鹿島小学校は、新しく建てたこと(うじゅいん)をかりて10年近く



子供神輿の様子

あることを願います。長い間、本当に大変だったと思います。が、素晴らしい事だと思えます。



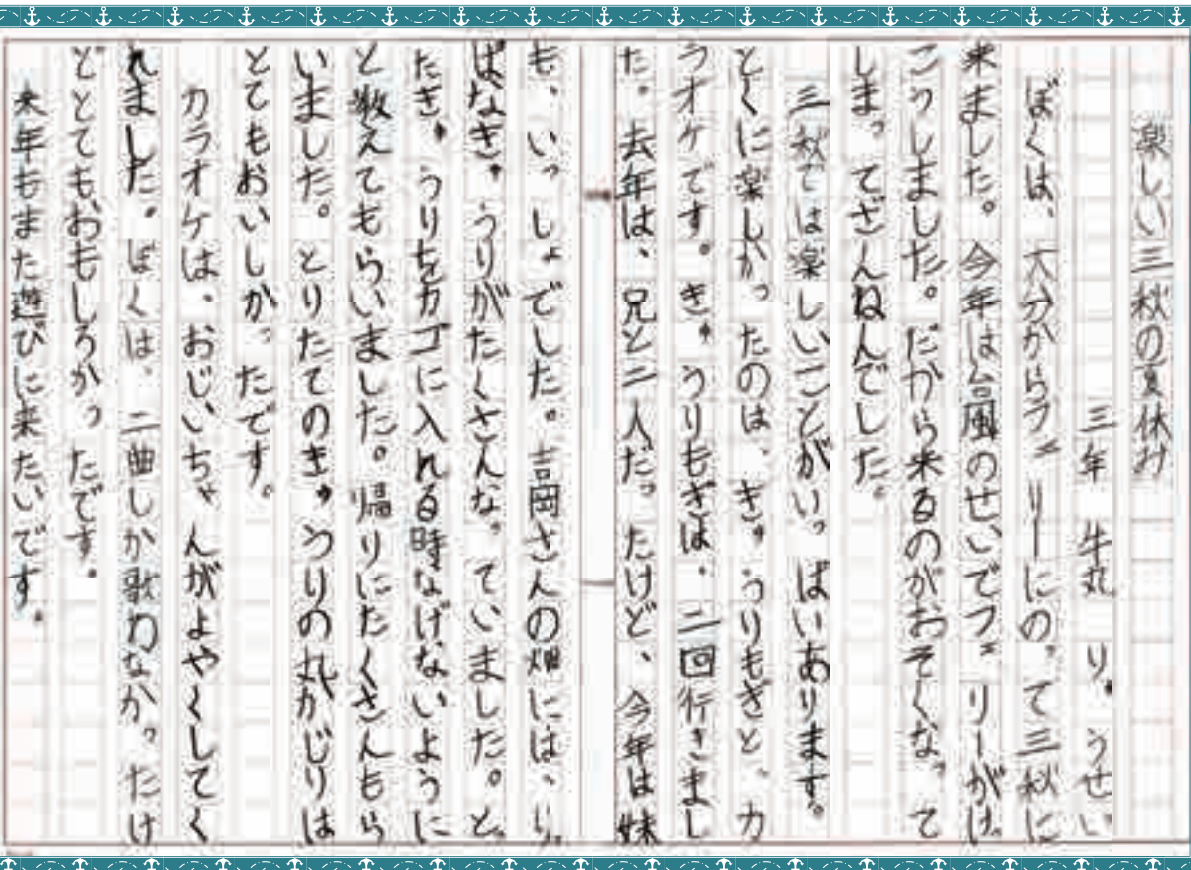
この時期だけの絶景

(文責) 原田 夏子



コウモリ洞窟の前で

西村さんのお孫さん(創刊号の牛丸凌珂くんの弟さん)より夏休みの思い出を作文に頂きました。



イチヨウ林の中で

秋も深まってきた、去る11月23日午前9時、肌寒い曇りの中、集会所に集合した銀杏狩りイベント参加者らと、明神山のイチヨウ林を見に出発しました。そこに行くまでの道中、三秋の良い所や見所、普段見落としてしまっている景色の話などで、盛り上がりました。私も楽しくて、ワクワクしながら、向かいました。山の入口にさしかかるころには、晴れ間も見え、みんなの期待も高まってきました。いいヒノキ林を5分ほど抜けていくと、そこには、頭上をこがね色で覆い尽くさんばかりの約50本のイチヨウ群が眼前に出現。参加者一同、見事なこがね色に、まるで別世界に

たかのような感動を覚え、一面に広がった、こがね色のじゅうたんがとてきれいでした。その後、その先にある洞窟にも行ってみたいという話になったので、急遽、洞窟に行くことになりました。その洞窟に行くには、90度近い急斜面を登らなければなりませんが、皆さん楽しみながら、急斜面をドンドン登っていきました。そして、ついに洞窟に到着すると、皆さん感激していました。今回は、昨年度見られなかった、この洞窟名の所以たるコウモ